初秋の北欧アアルトスタジオ訪問記

初秋の北欧アアルトスタジオ訪問記　　学生参加事業委員会　大島 誠

フィンランド、スウェーデン、コペンハーゲンの北欧各国を訪問する機会を得て、３都市ほどを北欧デザインをテーマに見学しました。中でもヘルシンキは名古屋から直行便が飛んでおり、最も身近な欧州の一つで訪問客も多いと伺っています。

fig1 ヘルシンキ　バンター空港　　fig2 港近くの丘から市街地を見下ろす　　fig3 港はラインクルーズの発着地

フィンランドは地理的にロシアと長い国境線を持ち、歴史上支配された時期もあり、ロシア正教の教会や特徴ある建築、街造り、島を利用した要塞などが見られ巷の市場ではロシア製の骨董品が並んだりします。また港町の特徴がありラインクルーズの豪華客船が並ぶ海岸沿いに多くの歴史的建築物が見られます。

fig4 マリメッコ社　　fig5 イッタラーガラス置物　　fig6 イッタラー陶器

フィンランドはデザインで独自の路を歩む特徴のある国だと思います。
マリメッコ、イッタラーなどが世界のブランドとして成功しており日本でも人気。マリメッコは特徴あるデザインの絵柄を服地や生活用品、雑貨に用いる事により人気を持続しています。花柄、動物などの自然物を巧みにしかも大胆に表現します。またイッタラーは伝統的なガラス工法を今日も量産方式の中で継続し、ガラスによる食器のみならず、芸術作品とも言える美しい彫刻、調度品を製作し現代

的なテーブルウエアに伝統工芸を巧みに取り入れています。アラビアを代表とする陶器の食器は、高度な技術と手に暖かい造形が相まって普段使いでも美しさと堅牢さ、使い易さを提供しています。
この国の著名なデザイナーのアルヴァ・アアルト（1898~1967）はご承知の通りフィンランドを代表する建築家であり、多くの家具、日用品をデザインしたデザイナーでもあります。スチールパイプの代わりにフィンランド国内の豊富な天然資源であるカバ材を用いて、家具を制作。木材継ぎ（L 字、Y 字、X 字等）の多くの特許を取得。また妻アイノは同じくデザイナーでありテーブルウエアなど多くの作品を残している。これらは現在もアルテック社、イッタラー社により製品化され販売されています。

fig7 アアルトと妻アイノ

fig8 スツールのスタッキング

fig9 ガラス花瓶

今回私が注目したフィンランドデザインのスポットはアアルトがそのスタッフとと共に仕事をしたスタジオ訪問です。場所はフィンランド市街地から少し離れた反対側の入り江の近くの瀟洒な住宅街の中にあり、周囲に溶け込んで見過ごしそうな位でした。世界的な建築家の仕事場という事で土曜日にもかかわらず訪問者が多く、人々の集まりを見てようやく場所を探り当てる事ができました。
白い外観は周囲の家々と同じですが中庭を取り囲み、仕事場と付帯的な建物がうまく調和しながら建てられた機能的かつ美しい佇まいです。

fig10 玄関を回り込み建物の側面 へ

fig11 さらに回り込み中庭へ

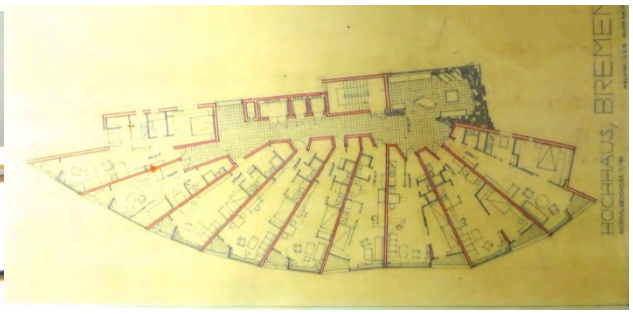
WEB で見学を申し込んだ人々を優先とするために、玄関で待つ事１時間。不安がありましたが無事中に入れて貰い、日本語の話せる受付の女性から「ようこそ」と声をかけて貰いました。アリガタヤ。
まず通されたのは食堂。ここで建物ツアー全体概要、アアルトや奥様アイネの生い立ちについて説明を受けました。建築の仕事は多くのスタッフが一つ屋根の下でチームワークを計りながら進める為に、キャンテイーンは欠かせない部屋で、間取りはキッチンと喫食室の配置で照明一つにも配慮がなされています。

fig12 食堂　布でカバーされ柔らかな光　　fig13 調理室は食器棚の向こう側

続いて設計室へ。大きく間取りされた２階の設計室は採光の行き届いた広く明るい部屋で自然光だけで設計図が描けると思われる開放的な空間です。それぞれの設計台の上には当時を思わせる図面が拡げられ、製図器や定規が置かれています。ユニークな形状の R 定規が目につきました。

fig14,15 明るく開放的な設計室　fig16 レンガブロック、fig17 押し出し材のサンプル　fig18 R を繋ぐ独特なカーブ定規

また高層コンドミニアムの模型と室内の間取り図があり、どの部屋からも良い眺めを提供するというアアルトの思想とその結果生まれたユニークな外観の模型が印象に残りました。



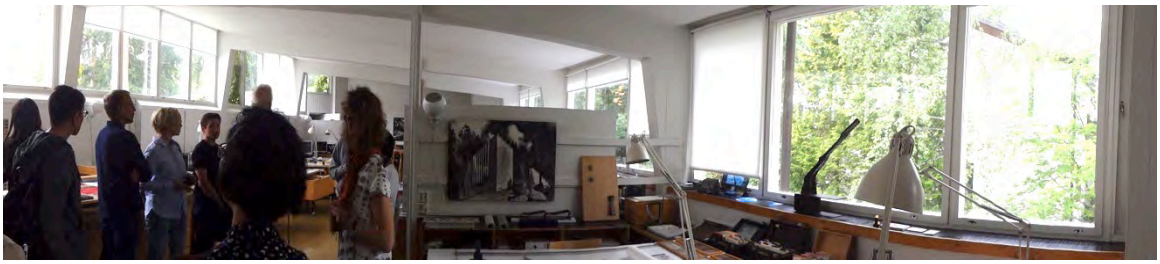


fig19,20 高層コンドミニアムと室内配置図　　fig21 設計室全景高い位置から採光する窓

設計室の脇には設計打ち合わせや図面、資料の収納のためのウオークインクローゼットのような部屋があり、写真資料の展示場所になっていました。また図面類は綺麗に丸めて図面ケースや天井付近に収納され、当時のアーカイブの工夫が感じられました。

fig22 図面やサンプル品を収納する木製ケース　　fig23 当時の設計資料を展示

fig24 建物の周囲まで作り込まれたホワイトモデル　　fig25 この設計スタジオの模型　内部まで精密に表現

最後に訪れた部屋はクライアントの応接や、スタッフとの打ち合わせに使ったと思われるマルチルームで広々とした間取り、高い天井で構成され、中央奥にはロフトへ向かう階段が設けられています。アアルトのデザインした椅子、ソファ、スツールが並び、会議や打ち合わせに使われる当時の写真が多く飾られていました。またアアルトの考案によると思われる照明器具も階段上のロフトから吊るされています。

fig25 広々としたラウンジ採光も抜群　　fig26,27 当時活用されていたアアルトデザインのスツールやソファーが並ぶ

この部屋もグラスエリアは大きく、窓の向こうには斜面に沿って中庭が見え、ミニコンサートや演劇も行なえるような階段状の庭石が印象的でした。

fig28 中庭を臨む　fig 29 スツール足を用いた変わり型テーブル　fig30 ラウンジの奥からアアルトが庭を眺める

アアルトスタジオ訪問を終了しその周辺を散歩してみました。ヘルシンキ近郊の住宅街であるこの辺りは他の住宅もゆとりある建て方のものが多く、同時に海岸にも近く、海辺沿いには散歩道が整備されカフェで家族連れや老夫婦が寛ぐ姿がみられました。

fig 31、 32 アアルトスタジオ周辺の住宅

fig 33 アアルトスタジオ近く海岸沿いの散歩道

アアルトの家具は現在もアルテックショップを通じて世界各国で販売されています。木材の特性を生かしながら組み木によるしなりや強度を確保し温かみを表現し、シンプルにまとめられた造形は、精緻な作り込みも相まって、機能的で現代でも古さを感じさせないモノが多いです。類似の商品が出回る中で売れ続ける魅力はそんな所にあると思われます。

フィンランド市内のアルテックショップを訪れて、新品に並んで古いアアルト家具が販売されているコーナーを見つけました。これらはヴィンテージ家具同様に当時の特別な彩色、パターン、表面処理で作られたもので希少価値として販売されているようです。

木部には少々傷があっても良い飴色に変化し、それが年を重ねた証拠と感じられるものであり、皮革を用いたものはスリ切れた部分もありながらエイジングによる重厚な質感があります。

またアアルト家具のヴィンテージものばかりを集めて販売しているお店もあり、北欧のモノ作り、デザインの奥深さに触れることができました。

fig 34 ヘルシンキ市内アルテックショップ

fig 35 曲木による精緻な脚部の作り

おおしま　まこと
大島　誠

名古屋学芸大学
メディア造形学部
デザイン学科 教授
中部デザイン協会 理事
国際ユニヴァーサルデザイン協議会 理事
自動車技術会 会員

［略歴］ 長崎県佐世保市生まれ　九州芸術工科大学（現九州大学）卒
トヨタ自動車株式会社　デザイン部、Calty Design Research Inc.にて
アドバンスデザイン、トヨタ、レクサス両ブランドの各車内外デザイン
に携わる。トヨタ紡織株式会社　常務役員を経て現在に至る。